

第二章 地名

地名(字名)について

本町では、三六〇余の字名が使用されていたが、これがいつの時代に、またどのような経緯でつけられたかを記す資料はまったくないが、往古より地域の人々が生活上必要に応じてできたものであろう。とりわけ中世以後、地域の開発が進むにつれて多くの地名が必要になったことはたしかであり、地域の開発に合せてしだいに増加したものと思われる。

そして地名の多くはその土地の利用状況、あるいは状態によって自然に、素朴に名付けられたものが多く、作爲的なものは比較的少ないといわれている。

いま町内にある字名の起源を大方の示す分類によって区分してみると、つぎのようである。

(A)土地を開拓し、配分するときその区分の仕方によつたもの

○秋田地域……八反田、五反田、壹丁田

○外坪 ……六反田

○河北 ……西・東・北割、百畝町、町田

○下小口 ……上・中・下五反田

(B)土地の地形より発生したもの(五条川沿いに多く見られる)

○上小口地域……上・中長瀬

○中小口地域……下長湫、中川原、乾田

○下小口 ……上・中・下流、東・西水砂野、吹野

○大屋敷 ……勝負池、坂小湫、大塚

○豊田 ……石河原、東・中・西池尻、西河原

○外坪 ……大長、豆田

○河北 ……棧敷、磯ヶ下

○余野 ……水瀬

このほか町内に二、三か所ある清水、幅上、幅下などが考えられる。

(C)土地の開こん以前の状況を物語っていると考えられるもの

○秋田地域……菽山

○大屋敷 ……植松

○外坪 ……松山

(D)神社、寺院など歴史的なものをもとにしたもの

○豊田地域……長楽寺、薬師裏、堀尾跡

○秋田 ……法徳寺、山神前

○大屋敷 ……大御堂、寺東、丸、宮前

○河北 ……天王前、三神、青塚東、天神塚

○余野地域……権現、僧都庵、大福寺、天神前

○上小口……万願寺、辨天東

○中小口……定光寺、城屋敷、地藏堂、新宮前

○下小口……寺田、堂軒、天神前

(E)集落をもとにしたものは町内どの地域にも多くある。すなわち、屋敷、郷前、郷中、郷裏、本郷、東出、出口、

屋敷越、村東、村西、郷東、郷西、二ツ屋、新田

(F)このほか特長のある地名が多くあるが、史実に基づくものがなく、昔からの言伝えにすぎない。とくに通俗的な小字名のなかに多くある。

表4-2 地名(小字名)

(行政上認められてきたもの)

大字名	小字名ヶ所	大字名	小字名ヶ所
秋田	四五	河	四五
豊田	五九 (六三)	北	四九
大屋敷	二六	小口(上小口)	三九
外坪	一五	〃(中小口)	三八
余野	二五 (二六)	〃(下小口)	四三
		計	六四
			三六一 (三六九)

(昭五三・三現在)

○秋田 四五

西廻間 屋敷 東叡山 郷裏 柳原 川原ヶ田 宮浦 西中山 村北 西叡山 宮東 山神前 西川原 宮前
 大樋 天王 南山 村西 勝負山 三町野 清水 北替地 法徳寺 髭田 六反田 米野 中原 畦知野
 八反田 向山 一丁田 西一丁田 五反田 郷西 叡山 屋敷越 東郷前 東八町 西八町 樋田 大原 中山
 村東 西郷前

○豊田 五九

長楽寺 西池尻 中池尻 東池尻 石河原 奈良子 差柳 葉師裏 流レ 大屋敷前 鹿ノ戸 長湊 若森 叡山
 善鍛 山根 東奈良子 寺東 追分 笹折 三町野 清水 藤ノ木 給田 大牧 樹木 榎坪 矢戸 水戸先
 茨島 高場 野田 大山 傍示 矢崎野 度々目利 堀尾跡 宮前 東屋敷 小皿 山神 南屋敷 南野 西河原
 東成兼 白木 白亀 西成兼 平田 霞野 二見 中切 福田 松下 下田 花見塚 雉子野 狹間 西屋敷

(編入 小湊・仏忌塚・二子・八反田)

○大屋敷 二六

北海道 縣 大御堂 下流 本郷 平生 高橋 宮前 花ノ木 坂小湊 八ツ面 吹野 山王道 白金 樋田
 勝負池 八ツ垂 植松 上野 丸 大塚 向野 寺東 山間 樋先 上大塚

○外坪 一五

大長 豆田 郷東 宮前 巾下 前田 郷屋敷 大島 六反田 柿田 柿田前 松山西 松山東 巾上 松山

○河北 四五

神明下 見浦 西見浦 棧敷 北河田 南河田 芋堀 柳原 羽加念上 石曾根 東端 蟹ヶ坪 東割 北割
 神明下 見浦 西見浦 棧敷 北河田 南河田 芋堀 柳原 羽加念上 石曾根 東端 蟹ヶ坪 東割 北割
 郷前 伴上 平田 井岡 郷中 西割 五三次 両目 馬喰島 長箴 五反田 町田 藤ノ木 一本宮 柿野
 天神塚 仲沖 仲沖前 仲沖東 天王前 三神 榎下 青塚東 宮東 二ツ屋 磯ヶ下 西狹間 伊賀田 巾上
 百敵町 寺島

○余野 二五

垣田 西浦 權現 寺前 川向 天神前 權現西 權現浦 大福寺 田代 田代西 下流 日高 神明下 浅畑
 宮前 明戸 寺浦 少々腰 水瀬 清水 中島 若ヶ橋 僧都庵

○上小口 三九

墓ノ腰 郷西 郷浦 北ノ山 水戸 西屋敷 上山伏 金三西 田中 郷中 西万願寺 原田 上万願寺 起シ
 馬喰島 辨天東 油田 郷瀬 北太郎丸 上向江 石曾根 北穴田 獅子毛 上長湊 北ノ坪 下田 中長湊
 高岡 塚田 東出 出口 梨ノ木 上大坪 島前 清水 島内 島浦 井堀間 下林 (下林・扶桑町へ)

○中小口 四三

下長湊 南穴田 一本松 仲沖 東柿野 馬場 下山伏 丸之内 定光寺 西山ノ神 地藏堂 西野合 下ノ段
 樋田 東大鹿 烏田 辻田 長蔵橋 東神薙 稲口前 西神薙 乾田 外坪浦 苗田島 大島 榎坪 西柿野
 上野合 東万願寺 下万願寺 西大鹿 向江 城屋敷 下野合 上木賀田 下木賀田 中川原 山中 鍋田
 宮之前 大坪 新宮前 新宮浦

○下小口 六四

下小口

上流カミナガレ 竹田東タケダゲガシ 竹田西タケダゲニシ 竹田タケダ 大御堂腰オホミドボシ 竹田浦タケダウラ 下島ゲシマ 下島東ゲシシヒガシ 野田野山ノダノヤマ 乗船イリネ 野田野西ノダノシ 彦市ヒコイチ 西吹野シフキノ
 西乗船シノリブネ 西流シナガレ 下島前ゲシマエ 野田野東ノダノヒガシ 野田野ノダノ 吹野フキノ 堂軒ドウケン 山王田サンノウタ 東水砂野ヒツミサノ 西水砂野シツミサノ 伏部ヌスベ 新田前シンデンエ 新田シンデン
 西樋田シヒノダ 宮前ミヤエ 仁所野ニシヨノ 本郷ホンゾウ 下池田シモイケダ 上池田カミイケダ 前田マエダ 上五明カミゴトミ 下五明シモゴトミ 北屋敷キタヤシキ 東五明ヒガシゴトミ 中五明ナカゴトミ 山ノ神ヤマノカミ
 天神前テングシマエ 植野ウエノ 東樋田ヒガシヒノダ 植松ウヅマツ 上五反田カミゴクシダ 中五反田ナカゴクシダ 下五反田シモゴクシダ 下流シモナガレ 中流ナカナガレ 東曲田ヒガシマカダ 寺田テラダ 寺田前テラダマエ 寺田前テラダマエ 山ノ神ヤマノカミ 下庭森シモテラモリ
 中庭森ナカテラモリ 上庭森カミテラモリ 寺田巽テラダタガヒ 石田イシダ 小虱コシメ 下神籬シモカシ 上猿境カミノサカイ 下猿境シモカシ 梶田カシダ 西曲田ニシマカダ 寺田東テラダヒガシ 下水砂野シモミサノ

補記

一、昭和五二・五三年度町村界変更により大字小口(上小口)下林地域は扶桑町に編入

一、〃〃〃〃〃〃 大字豊田へ小淵、仏忌塚、二子、八反田地域編入

一、〃〃〃〃〃〃 大字余野へ花立地域編入

一、〃〃〃〃〃〃 大字河北へ塚本、大竹、中窪、亀ヶ淵地域編入

町内の地名にはその地域で、発生についていろいろといひ伝えがのこっているが、地名は研究の方法によって多くの説があり、ここでは一般的な見方で特長のある地名について述べてみる。

○参考文献

- 地名の研究 柳田国男著
- 日本の地名 鏡味完二著
- 大口地名考 勝村 正編

○大屋敷オヤヤシ

大きな屋敷があつてのことではなく、いくつかの屋敷が集まっている多くの意味で、一つの集落をさしたものと考
えられる。

○北海道キタヤマト

海道は街道の意味で、村落の北の方の街道のある地のことである。

○白金シロギ

白ヶ根の転化したものと考えられ、砂地を意味するところが多い。根は地・土の意味がある。

○縣アガタ

上田アガリダ一段高い上の田地を意味し、分つアカツ（アカツ、ワカツの転声）で境を分けて開墾した田の意もさしているの
ではないか。古代の行政区画の縣ヤヒタレなどには関係ないと思われる。

○八ツ垂

土砂の崩壊または水の流入を防ぐのに打ち込む板を矢板ということからすると、ヤヤには水の意味が含まれるので、
水が垂れるで、崖を意味するのであろう。もちろん崖といっても畑と田との境高低ぐらいの所をいうのである。

○平生ヘイセイ

ひらたくなるヒロむの意のヒらぶで、草木のはえる所を開こんし田畑にした処を表わし、のちになって、
ヒラブヒラブをヘイセイと呼んだと考えられる。

○高橋カハシ

ハシは階(キザハシ)のハシで、段のことであつて「タカハシ」は自然堤防洲の微高地をいったものであろう。

○ハツ面

面とは、平たいものの数を表わすのに添える語、または面積の面で、田地の区画をいう面(めん)のことで、ハツに区画した地か。「ハ」は沢山の意味を表わすところから、多くの区画がある所の意味の地名であらう。

○丸

城、砦などの周囲に築いた土や石のかこい(カケ)を郭(カク)とか丸(マル)というのが転じて一區画の地域を丸とよび、また莊園時代には田地の区画を丸とよんだことによる地名でもあろう。

○花ノ木

榛(ハン)ノ木のことで、カバノキ科の落葉喬木で、多く切替畑に育てられ、成長が早く、根が深くなく、切株のまま放置しても芽をふくこともなく、土の養分が吸いとられることが少なく、実生で簡単に育てられるので多く利用されたと考えられハンノ木がハナノ木に転化したもので切替畑、焼畑の意味を表わす地名である。

○樋先

自然の落差では水田に水をかけることができないので樋で水を通した田地の先端の地の意味であらう。

○坂小測

坂は境の転化したものであろう。大屋敷本郷と高橋との境の測の意味と考えられる。

○山間

今日では「ヤママ」とよんでいるが、往昔は「ヤマアイ」といつていたと思われる。

一面山林であつたところを開墾したもので、山林の間にある集落を示したものであろう。

トヨダ
○豊田

「延喜式」の民部式に「凡そ諸国部内郡里などの名、みな二字を用い、必ず嘉名（好字）を取れ」とある。

この豊田の場合も好字をつかつたもので、ホタ、トダ（トダ）が湿地とか湿田の意味であるところからして、ホタ、トダに豊の字をあて、トヨダとよんだものでなからうか。湿地は水田耕作にとつてもつとも必要な土地であり、こうした地に多くの人が居を構え生活したものであろう。

チヨウラクジ
○長楽寺

五条川と昭和用水との合流する地であることからすると、洪水のときよく流される田地であるのでナガレ（流れる）の意の「ナガレジ」（流れ地）に好字の長楽寺をあてたものとも考えられる。

イケシリ
○池尻

尻とは下部、底面の意味で、昔は池であつたことを示すものと考えられる。この地に接する江南市安良にも池尻の地名があり、かなり広い湖沼であつたと考えられる。

ナラシ
○奈良子

平らにする意味の、他動詞「均す」^{ナラ}「平す」^{ナラ}の副詞形が「ナラシ」であり、高低や凸凹のないような平坦な土地の意味である。

※朝鮮語で「ナラ」は国とか集落を示す語である。

ナラシに子の字が宛てられているのは地の意を示すものと考えられる。

○ 差柳 サシヤナギ

苗代の水口の両側に柳の小枝をたてた農耕儀礼に因む地名である。

柳の葉は細長く、稲の葉に似ており、枝をさしておくとすぐに根付くところから、稲の豊穰を願って行われたと考えられる。

○ 鹿ノ戸 カト

荘園の本来認められた地域以外に耕作した土地で、その荘園の付属地として承認された所で、いわば追加開墾地を「加納」というが、この加納の処という意味であろうか、また「刈野」は焼畑を示す語であり、この意味とも考えられるが、いずれにしる比較的新しく開墾され、水田として使用された土地であろう。

○ 給田 キユウタ

中世では領主から給与され、貢租を免除された田畑のことであるが、江戸時代では各藩で藩士に与えた知行地のことを給田又は給地といった。

○ 傍示 ボウジ

傍示とは標示のことで、村境いに立て境界を示す傍示木のことをいい、村境にある土地とか、村境いの標のある土地の意味である。

○ 成兼 ナリネ

江戸時代、田畑から上納する年貢以外の税の総称を、小物・成箇・といひ、一定の年貢のほか雑税を納めることが義務づけられていたことによる地名であろう。

○花見塚
ハナミヅカ

「花」ははしの意味の端で、「見」は場所を表わす接尾語のことで、「塚」は二子山(古墳)に因んだものであろう。

○秋田
アキタ

アクタ(芥)、アクツ(阿久津)の転声のアキタ(秋田)で湿地、低地を示すと考えられる。

○兔
ウサギ

ウダ、ウタに通ずるウサギで砂地の湿地を表わす。

○法徳寺
ホトクジ

女人の陰部をホトとよび、一般に窪んだ地形をさすもので、寺は地の借字であってホトの地であり、低地の窪んだ所には蛙(ホトトク)もいることも連想させて好字「法徳寺」としたのであろう。

○勝負山
シヨウヤマ

往古、土地争い、境界争いがあり、代官所などに調停され、たがいに承服したことを示すものであろう。

○豆田
マメダ

低地と徴高地が入りくんだ地で、あいだあいだにある田、すなわち間田が転じて豆田になったものであろう。

○大長
オオナガ

田の区画をオサといい、耕地整理のことをオサナオシといったところから、大きく区画整理された意味を示すものと考えられる。

○毘田
ヒダ

水引きのヒキ、ヒクにヒゲをあてたもので、水がよくしみ込む田の意味を表わしている。

○天王テンノウ

近くに津島神社があり祭神、牛頭天王に因むものである。

○西廻間ハシマ

狭間ハシマで川と水田に挟まれたせまいところを示す地名である。

○河北コホ

五条川の北側に位置する村落であるところから河北とされたのであろうが、河をコとよむのは河は江と同じ意味であり、母韻の転訛によってカワがコとなったものと考えられる。

○棧敷サンジキ

河北地内の北端に位置し、村内での郷瀬川の最上流部に沿った地であることと、標高の高い地に属する地であることなど、見物のため一段と高く構えた床の意味であらう。

○芋堀イモホリ

地内に用水堀があるところから考えると、井堀が転訛したと思われる。

○蟹ヶ坪カニツツ

カニは曲った所を意味し、おそらく用水路の極端に曲った区画というのであろう。

○大竹オホタケ

タケ(岳)、タカ(高)、タキ(滝)はすべて崖を意味する、河岸段丘を崖とみなしてタケとし、竹の字をあてたもので

あろう。大は単なる接頭語であると思われる。

○伴上バシヨウ

番所(江戸時代に交通の要所に設け、通行人を見張った)の転訛でなからうか。

○両目リョウメ

分目(分けた所、区別した地点)の目と同じで、二つに分けた田地を意味し、河北と仲沖の境目ということであろう。

○釈迦の下シヤカシタ

坂の下が訛ったものであろう。

○二ツ屋フタヤ

二軒屋の意味で、開村当時、二軒の人が開発にあたったことが、その後ずっとそのまま地名として残ったものであ

ろう。

○獅子毛シシゲ

シケで湿地を示したものであり、毛は一毛作、二毛作の毛によるものと思われる。

○北太郎丸キタタロウマル

丸は区域を示すものであって、太郎なる人の所有する田地の意だと考えられる。

○起シオコシ

オコス(起す、興す、耕す)にはいろいろの意味があり、ここでは開墾地を表わしたものと考えられる。そしてこの

附近では一番早く、水田となった田地であると考えられる。

○水戸 ミヅト

水戸とは水のある処のことで、白山神社にあった池も昔の低湿地を偲ばせるものである。

○田中 タナカ

字からすれば田畑の中程のように解せられるが、棚ツツ(一段高い、自然堤防洲)のような処の意味である。

○上野合(下野合) カミノアヱ

戦いで、両軍が平地で出合うことを野合ノアヱというが、それが出合いの意にも混同されている。五条川の兩岸に位置するところからみればこの地は、出合いの地、入会地で共同の草刈場であつたと思われる。

○木賀田 キガタ

コガとは、未墾地、休閒地をさす語であり、この地が他よりやや遅れて開墾されたことが地名から察せられる。

○榎坪 エノキタ

水田灌溉用の細い用水路を「えぎ」と昔はよんでいるところから、そのえぎがある田区の意が榎の坪となつたものであろう。

○萩島 ハゲシマ

ハギは萩だけでなく、もとは榛ハシノキもハギといった、切替畑(焼畑)に仕立てる木はすべてハンノ木であつたところからハギは切替畑、焼畑のことである。島は、はなれた所の一区画を示す意味である。

○下田 シノメダ

地味のやせた下等の田地のことで、江戸時代の検地の折決められた田畑の品位によるものであろう。

○上大坪オホオホ

ツボとは広さを計る単位で、一般に往古の条里制の名残りを示す地名といわれているが、条里制の一坪は一町歩で今日の一町二反(約二二〇アール)に当たり、かなり広い大きな土地の意とも考えられる。

○大島オホシマ

シマ(島)は四面水によって囲まれた小陸地のことで、上大坪と同じように広い区域の田地の意ということになると思われる。

○小嵐コアラ

「白み」で白いに状態、程度を表わす接尾語「み」がついたシラミに虱の字をあてたもので、砂地を意味する地名である。

○猿境(上・下)サルサカエ

ジャリ(ザリ・砂利)、すなわち砂礫地は地下への水の滲透がよい。箆ザル(竹製のかご)が水が洩るところからザルは砂礫地を表わす語にあてられ、ザルの清音サルに猿の字をあてたものと思われる。

したがって砂地でしかも外坪と小口の境の意味を示す地名であろう。

○庭森(上・中・下)ニラモリ

イワイモリ(祝森)の転訛のニワモリで、田の神、山の神など農耕儀礼に因むものを祀ったことによると考えられる。

モリは杜にも通じ開墾されるまではそこは樹林地で、山の神、田の神が祀ってあったことは容易に察せられる。

○仁所野ニシヨ

琴平神社と白山神社があるところから、二か所の靈地の意であろう。

○五明ゴメイ（上・中・下・東）

水びたしになる意味の「ツク湧む」に基づく語で、ゴミ、ゴミヨウは泥地とか沼地を一般に表わすとされる。

○堂軒ドウケン

ドウは堤や土手の意味の塘トウの転訛で、軒は緩傾斜の土地を意味するもので、野田野の隣接地であることからしても、そうであると考えられる。

○吹野フキノ

フカ（深）の転訛のフキで、深いとは泥ニ・深シの意であり、泥沼の地の意味はこの字をあてたものと考えられる。

○野田野ノタノ

ヌタノ（沼田野）であり、沼地であったところにつけられた地名で各所にある。

○下島ゲジマ

地味により上・中・下・下下と分け石高（分米）を決めた制度による、下田の多い地域の意味である。

○乗船ウリフネ

深田であるから、船に乗って農作業をしたのに因む地名であろう。

○竹田タケタ

木曾川乱流時代の旧河道沿いの微高地であり、高・岳の意味である。

○彦市ヒコイチ

人の名前に因む地名のようであるが、低い地の転訛であると考えられる。

○伏部フスベ

燻べる(燃やして煙を立てる)のフスベで、焼畑作地であったことを示す地名と考えられる、部は部分個所を意味している。

○山王田サンウダ

部落共有の林野を「野散」、ノザン「散野」とよんだところから、散野が山王の字があてられたであろう。往古は共有地であったことを示す。

○参考

〈地名について〉

「尾張国地名考」には町内の往古の村々についてつぎのようにしるされている。

※尾張国地名考は文化一三年(西暦一八一六)に津田正生が著した。

○河北村カキ 支村二、中冲ナカキ、二屋フシヤ

地名正字也入鹿落の川條の北にあり此故に、川北とよぶ、村民胡義多と呼ぶは急語なり、支村中冲は、猶冲中といわんがごとし。

〔正生考〕昔、赤染右工門の馬津宿(葉栗郡内)に泊りて夜な仮屋に涼まれし時に舟に棹さす男の冷なる水汲に沖へ罷ると答えたりし沖とは此地に中れり此辺は岐蘇の長流に入鹿山の霰も落合て氷なる沖をなせ

る所なり。

○小口村 上・中・下の三村あり、支村五、萩島、竹田、寺田、稲口、野田野

〔和名類聚〕丹羽郡小口郷

〔正生考〕村名正字にや丹波の国千歳山の山下に小口村あり。

〔頭照法師日〕もとは尾口と書たり尾とは山のさきの垂たるをいふと見ゆ。

○餘野村 余能平声によぶ。

あまる野といふ義歟其故をしらずあるいは転声ある歟、和名類聚の郷名に餘戸と呼ものあり。

〔正生考〕餘野村の東のはしにある天神の宮その傍なり、此森一町四方もあり、すべて此辺は石地にて今は荒にあれば茂林のごとし其中に天神ましまして左右に小さき社頭二ツあり今天満宮と呼ものは誤りなり、そもそも餘野村は中小口村の西二、三町にありて、天神の社とは水田二町をへだてたり、尤往昔は小口の郷の一円なること著明なり。

○大屋敷村 支村三、高橋、大御堂、新田

地名未レ考

○外坪村 そのかみ入鹿落及木曾川の分流の堤外の縁にある地ゆへ外坪といふ但し外とは河水のある方をいい、内

とは田圃のある方をいふなり。

○長桜村

正字長狭倉の義なり往昔木曾川の下流も入鹿落の流れも共に此村の左右を流れたり、其瀬々の中に小高く南北に長き地なるが故に長佐倉と名付けたるべし、桜は借字なり久良は小高きをいい、佐はかなにて

○ 供御所村 クヨシヨ

狹きをいふなり。

五五所といふは言便なり一つに御供所とも書、村名はじめより字音なり。
地名未レ考……以下略

第四章 文化財・遺跡・名所

第一節 文 化 財

郷土大口の古い歴史と風土の中で生まれ、先人の尊い遺産として受けつがれてきた文化財が町内には数多くある。この中で現在県指定文化財が五件、町指定文化財が三九件あり、これらはそれぞれの機関の議を経て歴史的、美術的あるいは学術的に貴重なものとして指定をうけ、これを保護するとともに活用し、つぎの世代に伝え、新しい町づくりと郷土文化の進展をめざし、多くの努力がはらわれている。

表4-3 県指定文化財

類別	件名	出土および所蔵地	管理者	住所	指定月日
彫刻	鑄鉄地藏菩薩立像	大屋敷字寺東八〇	長松寺	大屋敷字寺東八〇	昭和三四・一・二六
考	狛犬	余野字西浦三三二	余野神社	余野字西浦三三二	〃三七・三・一〇
彫刻	古条痕文土器	五六外	今枝日出夫	小口字宮前五二	〃四二・三・一七
彫刻	銅造千体地藏尊	小口字郷中五九ノ一	薬師堂	上小口一丁目三三五	〃四四・六・三三
彫刻	聖徳太子像	〃	〃	〃	〃